

1. 題材名 「衣生活関連産業の職業と資格」

2. 題材設定の理由

- 衣生活関連産業は、繊維産業からアパレル産業や小売業まで広範囲であるが、現代では衣生活における既製衣料の占める割合は非常に大きい。性別、年齢を問わず人々のファッションに対する関心は高く、消費者ニーズも益々多様化している。

本題材では、自分のファッションに関する興味・関心を振り返りながら、ファッション産業における職業を知り、職業観を身に付けるとともに、専門学科で学ぶ意義をもたせ、必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を育てることをねらいとしている。ここでは、生徒たちに身近で関心も高いアパレル産業やファッション小売業を中心に上げ、デザイナー、パタンナー、ファッションアドバイザー、スタイリストなどの具体的な仕事内容や必要とされる知識、資格等の正しい知識について、講演や実地調査、発表等、主体的学習活動をとおして理解が深まることを目指している。

- 本学級は、97%がファッションに興味が「とてもある」または「ある」と答えており、その興味の対象は「洋服」66%、「ヘア・メイク」27%、「ネイル」8%と、ファッション全般に渡っている。

将来就きたい職業については、デザイナーやスタイリスト、ファッションアドバイザーといったファッション産業に関わる具体的な職業を挙げて、進路を考えている生徒が14%ずついる。

一方で、ファッション産業の中でも、日頃よく耳にするファッションアドバイザー、スタイリスト、デザイナーなどについては、67%の生徒が「知っている」と答えているが、そのうち、「職業の内容が説明できる」と答えた生徒は34%であった。

また、バイヤーやマーチャンダイザーといったそれ以外の職業についての認知度は2~30%程度であり、「職業の内容が説明できる」と答えた生徒はほとんどいなかった。

このように、生徒はファッションについて興味関心をもって本学科を選択しているが、ファッション産業を良く知らないため、イメージだけで職業をとらえており、現在のように細分化された職業についての知識が乏しく、卒業後の進路について漠然としか考えられない生徒も多い。

- 指導に当たっては、専門性に重点をおきファッション産業の成り立ちと、それに関わる職業について具体的な理解と関心を高めるため、講演会や視聴覚教材などを積極的に取り入れる。企業見学、調査及び職業人へのインタビューをとおして、最新の産業の現場を体験し、社会で働くことの意味や厳しさを生徒に考えさせ、職業や働くことについてより身近に感じさせたい。さらに、このような体験的学習をとおして社会人としてのマナーや、グループ活動を行うことでのコミュニケーション能力、調査研究の成果を発表させることによるプレゼンテーション能力を身に付けさせたい。

3. 目標

- ① ファッション産業に関わる職業や資格について理解を深める。 【知識・理解】
- ② 専門学科に関する職業を知り、職業観を身に付けることで、自分に合った進路を考える。 【思考・判断】
- ③ 専門学科で学ぶ意義を理解し、必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を高める。 【関心・意欲・態度】
- ④ インタビューや発表をとおして、マナーやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高める。 【技能・表現】

4. 指導計画

第3 衣生活関連分野の産業と職業	(全30時間)
ファッション産業の構造	4時間
衣生活関連産業について	2時間
アパレル販売にかかわる職業と資格	2時間
ファッション産業講演会	2時間
商業施設見学	4時間
調査のまとめ及び発表準備	6時間
生徒発表	4時間 (本時4時間目/4時間中)
アパレル素材産業にかかわる職業と資格	2時間
アパレルの企画・生産にかかわる職業と資格	2時間
その他の関連する職業	2時間

5. 本時の指導観

前時までに生徒は、ファッション産業の職業について学習し、元百貨店MDで現在ショップオーナーによる「ファッション販売」講演会を聞いた後に、近隣のアウトレットモールで消費者ニーズや店舗ディスプレイ・ファッション販売員(FA)についての現地調査を行い、それらの調査結果をまとめ各班で発表準備を行っている。

そこで本時では、FAの仕事内容と役割を理解することをねらいとする。そのためにまず、消費者ニーズを調査し、消費者がファッション産業やFAに何を求めているかを生徒発表を行い考察させる。次に、FAは消費者ニーズに対して商品ディスプレイなどにどのような工夫をしているか、FAとはどのような仕事なのか。生徒発表を行い理想のFAについて考えさせる。さらに、望まれるFA像と必要な資質について班で話し合いをしながら考えさせる。最後に、本時のまとめを行い次時の予告を知らせる。

6. 本時の目標

- FAの仕事を知り、お客様に求められるFA像について考えることによって、職業人として必要な知識や専門学科で学ぶ知識や技術がファッションに関わる仕事につながることを理解し、将来の進路について思考を深める。【思考・判断】

7. 教材・教具 教科書：文部科学省「生活産業基礎」、プリント、発表資料、パソコン

8. 過程

	学習活動・内容	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
導入	挨拶および出席確認 本時の学習目標を確認する。	前時間の発表をふまえ、発表の方法、聞く態度の注意点を確認させる。 将来働く側に立つことを頭に入れ、発表を聞くよう促す。		3分	一斉	
展開	生徒発表 消費者アンケートについて 商業施設について	発表をするのにふさわしい態度かをチェックする。 生徒の姿勢を正させ、発表を聞くよう促す。	発表資料	8分	班・一斉	(1)
	評価シートに発表の感想・分かったことを記入する。	消費者が求めるF A像について考えさせる。 消費者の要望と商業施設の販売形態について考えさせる。	プリント	3分	各自	
	生徒発表 店舗のコンセプト・ターゲット ディスプレイの基準について 店舗の工夫点について	発表をするのにふさわしい態度かをチェックする。 生徒の姿勢を正させ、発表を聞くよう促す。	発表資料	8分	班・一斉	(1)
	評価シートに発表の感想・分かったことを記入する。	各店舗のターゲットとレイアウトの関係について考えさせる。 ビジュアルマーチャンダイジングの必要性について考えさせる。	プリント	3分	各自	
	生徒発表 F Aインタビューについて F Aの仕事について	発表をするのにふさわしい態度かをチェックする。 生徒の姿勢を正させ、発表を聞くよう促す。	発表資料	8分	班・一斉	(1)
	評価シートに発表の感想・分かったことを記入する。	F Aの仕事内容について考えさせる。 前時間のアンケート結果と比較して、理想のF Aについて考えさせる。 時間があれば意見を発表させる。	プリント	3分	一斉	
	F Aに必要な資質やお客様に望まれる理想のF A像について班で話し合う	F Aは消費者との窓口であることに気付かせる。 プロになるためには専門的な知識が必要なことに気付かせる。	プリント	10分	班	(1)
まとめ	これから身に付けなければいけない知識や技術を知る。	F Aの目に見えない仕事について説明する。 ファッション販売能力検定取得に向けて勉強する意義を説明する。		4分	一斉	
評価	(1) 職業や仕事について得た情報から将来の進路について思考を深めている。【思考・判断】 評価方法：評価シート分析					